

転勤者の2割「マイホームを賃貸」

リーススタイル

不動産メディアのリーススタイル(東京都中央区)は4月25日、家を買って転勤になった男女1000人を対象に調査した「マイホームの活用方法」の結果を公開した。1000人のうち40%が、マイホームを現金化していた。うち23%が賃貸に回し、売却が12%、社内借り上げが5%だった。

全体の傾向としては、10年以上住んだ家は売却し、居住期間が5年未満の場合に賃貸として活用する傾向があることがわかった。売却に踏み切ってしまう理由として「転勤期間が長期にわたる」「住宅ローン控除を受けられない」などの回答があった。相続税対策で新築マンションが供給されるなか、マイホームの転賃も、入居者獲得競争を

一層厳しくする材料になっているだろう。

■家を買うと転勤に？

同社は他にも、「『家を買うと転勤になる』という都市伝説は本当か」という調査結果を公開している。全国の20代以上の男女582人の中で、3人に1人の割合で「家を買うと転勤になると思う」と回答した。一方で「関係ない」が3分の2と大半を占めた。